

編集後記

2月と言えば、日本においては、最も厳しい寒さの季節である。しかし、3月という春が間近に迫っている感じも否めない月である。

今月は久しぶりに「切断」の特集をお届けすることになった。切断者のリハビリテーションは、古くからの長い歴史がある。しかし、ともすれば安易に流れるきらいがないとも言えない。中島氏の述べるように、「切断後にあてがい扶持に交付された義手を苦勞して使っている切断者が少なくない」とある通りである。

一方、切断者のリハビリテーションは、リハビリテーションの1つのモデルとして、切断術を行う外科医から、義肢製作者に至る多くの人々のチーム・アプローチが必要なことは言うまでもない。また、多くの場合、切断術が行われる前から、リハビリテーションが始められねばならないことも強調されてきた。こう考えてくると、切断者のリハビリテーションは、医師のためにあるのではなく、PT、OTや義肢製作者のためのものでもない。切断者のために、いかに専門家が協力し

合うかが最も大切な点であろう。この原点に立ち返って、この特集を一読して頂ければ幸いである。特集の論文は、切断者のリハビリテーションにとって、最も困難な課題に挑戦した報告である。

「講座」は土肥氏の「心疾患の知識」と荻島氏の「関節可動域訓練」である。前者はリハ医にとっての必須な知識として、後者は、日常安易に流され易い技術を、リハ医学の立場から見直して正しい知識とするために役立てて頂きたいと考える。

「研究と報告」は、最近の号では仲々力作が多く喜ばしい状況を呈している。今月号でも、有川氏の論文は総括的な立場から、脳血管障害の下肢に対する手術を論じたものである。山永氏等の論文は、リハビリテーションの立場から、新しい観点でわれわれに多くの示唆を与えて頂いたように感じられる。今後ともこのように、リハ医学の眼で多くの問題を洗い直して頂きたいと願うものである。

(大川 嗣雄)

編集顧問

天児 民和
大島 良雄
小池 文英
杉山 尚
砂原 茂一
津山 直一
水野 祥太郎

編集委員

明石 謙
上田 敏
大井 淑雄
大川 嗣雄
千野 直一
土屋 弘吉
横山 巖

編集同人

赤津 隆
今田 拓
今村 哲夫
江口 寿栄夫
荻島 秀男
小野 啓郎
加倉井 周一
河邨 文一郎
五味 重春
斉藤 正也
沢村 誠志
武智 秀夫
永井 昌夫
中村 隆一
野島 元雄
間 得之
長谷川 恒雄
橋倉 一裕
福井 罔彦
三島 博信
渡辺 英夫
飯田 卯之吉
田中 照子
小川 孟
野村 歆
小島 蓉子
笹沼 澄子
鈴木 明子
高田 玲子
林 玉子
土屋 和夫
松村 秩
(以上五十音順、敬称略)

(細田、鹿島)

次号予告 (第7巻第3号)

特集 運動分析

工学的手法による運動分析に対する考察……………	岡山大	武智 秀夫
運動分析の方法論……………	中伊豆リハセンター	窪田 俊夫
脳性麻痺の上肢の運動分析……………	太平療育園	菅原 正信
片麻痺非麻痺側の運動分析……………	日大	佐野 精司
片麻痺上肢の運動分析……………	都老人研	鎌倉 矩子
講座 リハビリテーション医のための循環器入門(3) (虚血性心疾患)……………	埼玉医大	土肥 豊
リハビリテーションにおける治療(3) (バイオフィードバック療法)……………	慶応大	千野 直一